

日伯新聞

Caixa No. 375
Phone. 2-3926
外本紙發行所 日伯社
金六十元
一四字語一行八百レース
一面及八面二百レース増

不景氣落付く

一般的の不景氣は多少落付いた模様である。去年から今年へかけての破産やコンコルダクターはモラトリアルトリアムの施行と餘儀なくされるかも知れぬ形勢であった。

田舎は事實上自然のモラトリアルトリアムが行はれてゐる所均しく、アゼンデイロは金を受取らぬかれるかも知れぬ形勢であった。

実際にをして全耕地の半分はまだコロノのバガメントを完了してない。コロノも亦今時何所へも移つてみやうがなく仕方なく之れまた落付いて居る。

一方サントス市場を見ると珈琲は安いながらも賣れて居る。

政府も以前は奥地からの出荷を

一日三万俵に制限して居たを

去年から四万俵とし、今は一

日五万俵づつ出させてゐる。

倉庫の中に積んどいては話にならぬが、安いながらも賣れて居ることは決してない次第である。

だが五万や六万の出荷では到底奥地の大ストックをハタききせ得ないことは無論のことである。

パンコド・ブラジルが昨今爲替

市場で無暗と買進んでゐるのも確かに借入成立を語るものであ

る。只條件が不利なため統領選舉前に之れを發表しては人氣を損ねないことは無論のことである。

だから黙つて之れを匿して居るのである。珈琲の

ストックをハタききして居ること

ろ借款財源の懸念に基くものと

見る方が當つて居るかも知れな

い。たゞへ一時的にもせよ、こ

うして一般の状況が常態に復し

かけて來た。

◇

三月一日大統領の選舉を端境として何程か景氣が立直るであらうとは何人も豫想する所である。或はそうかも知れない。然しながら今度の不景氣は大統領の選舉とは直接關係はない、當然來るべきものが來た迄であつて、選舉がすんだからとて、取つたか見たかに景氣終了は同時に不景氣の口實を失して居た者に取つては、選舉を終了した。

メーロ氏遭難

當時の状況

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カルロス氏は、その後ワシントン・ルイス氏のジュリオ・ビアンナ氏の遭難事件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

この時の自由聯盟派の中心勢力を爲すミナス州の出身であり、然も聯邦副大統領として、政府派の要路に在るメーロ・ヴィアンナ氏の去就問題が、政界興味の中心となり、且つ又、政

自ら兩黨が、やつきとなつてメーロ氏抱き込みを盡した事は

然もメーロ氏はミナス派の過剰的な期待を裏切つて、遂に

反感は益々甚しくなつて來た。

時に今度の遭難事件である。選舉當日を目前に控えて、

ミナス州の選舉がすんだか

に於ける事件の發生地が、遠隔へき地であるとの、事件が事件である

為め、電報の傳ふる所區々なるも本紙は出來る限りの詳細を

次に報導する。

メーロ・ビアンナ氏は北部

ミナス州モニス・クラロ市

にて七日より開催される答申席に列席

ヨン・アルベス氏の宅の前にさ

メーロ・ビアンナ氏遭難

當時の状況

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラ

ロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事

件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を

以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カル

ロス氏は、ミナス州の名譽を賣つた

クラロ市に到着後メーロ氏の

因に一行はペーロ・オリソ

市からの特別救護列車を持つて

市向け引け返ししたと。

尙一説には、一行モニス・

ラ・アエル氏他五名、重輕傷を

受けし者十六名に及んだ由。

ペーロ・オリソは行かぬものと傳

トロボリスには行かぬものと傳

由。

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラ

ロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事

件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を

以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カル

ロス氏は、ミナス州の名譽を賣つた

クラロ市に到着後メーロ氏の

因に一行はペーロ・オリソ

市からの特別救護列車を持つて

市向け引け返ししたと。

尙一説には、一行モニス・

ラ・アエル氏他五名、重輕傷を

受けし者十六名に及んだ由。

ペーロ・オリソは行かぬものと傳

トロボリスには行かぬものと傳

由。

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラ

ロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事

件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を

以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カル

ロス氏は、ミナス州の名譽を賣つた

クラロ市に到着後メーロ氏の

因に一行はペーロ・オリソ

市からの特別救護列車を持つて

市向け引け返ししたと。

尙一説には、一行モニス・

ラ・アエル氏他五名、重輕傷を

受けし者十六名に及んだ由。

ペーロ・オリソは行かぬものと傳

トロボリスには行かぬものと傳

由。

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラ

ロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事

件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を

以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カル

ロス氏は、ミナス州の名譽を賣つた

クラロ市に到着後メーロ氏の

因に一行はペーロ・オリソ

市からの特別救護列車を持つて

市向け引け返ししたと。

尙一説には、一行モニス・

ラ・アエル氏他五名、重輕傷を

受けし者十六名に及んだ由。

ペーロ・オリソは行かぬものと傳

トロボリスには行かぬものと傳

由。

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラ

ロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事

件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を

以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カル

ロス氏は、ミナス州の名譽を賣つた

クラロ市に到着後メーロ氏の

因に一行はペーロ・オリソ

市からの特別救護列車を持つて

市向け引け返ししたと。

尙一説には、一行モニス・

ラ・アエル氏他五名、重輕傷を

受けし者十六名に及んだ由。

ペーロ・オリソは行かぬものと傳

トロボリスには行かぬものと傳

由。

メーロ・ビアンナ氏射撃

各派の幹部頻りに運動

襲撃事件を中心にして展望

七日聖市發行の各夕刊紙は、ミナス州北部モンテス・クラ

ロ市に於ける聯邦副大統領メーロ・ビアンナ氏の遭難事

件を報じて、一般に異常なセンセーションを受けた。

今度の大統領選舉問題擡頭の當初、自ら次期大統領候補を

以て任じてゐた現ミナス州統領アントニオ・カル

ロス氏は、ミナス州の名譽を賣つた

クラロ市に到着後メーロ氏の

因に一行はペ

文藝欄

映畫國のアントール
チャーリン情話集
——彼を繞る七人の女——
影の男

文藝欄
綠蔭禮讚
須美

誰かが「祖國を離れた時、始めて祖國が解る。」と言つたそだが、事實書籍の中に埋もつてゐる、眞實の學問は出來得ない濫讀の弊は尙读まさるよりも大きい。思索もなく省内省もなく、只漠然と智識を詰め込むための學問するならしない方がまだしまだ。

都會に於ける智識の探求者達の生活。それは何と云ふ目眩ぐるしい事だらう。高速度輪轉機の運転に、右から左へと、左から右へと、事實が恐ろしい勢で流れ行く。事實とは? 彼の求め居る智識だ。彼等の前には、豆絞の手拭の様な印刷物が右から左へ、又は左から右へ、とすくする絶間なく流れて行く。讀んでる間でも後から後から無限に、百呪! 千呪! 一哩、千哩、千哩……。絶對に靜止を知らぬ事實の流れ、それは恐ろしいスピードだ。そして此のスピードを取巻いて、強烈な世紀文明の光線があり、耳を壓する大都會のジヤズバンドがある。讀書、酒、勞働、娛樂、そして又青春の精力濫費としての戀愛。

文明と都會の力は、彼等に一秒の静止も許さぬ。彼等は何も考へる暇は與へられない。一分ない。人生の内奥は

誰かが「祖國を離れた時、始めて祖國が解る。」と言つたそだが、事實書籍の中に埋もつてゐる、眞實の學問は出來得ない濫讀の弊は尙读まさるよりも大きい。思索もなく省内省もなく、只漠然と智識を詰め込むための學問するならしない方がまだしまだ。

都會に於ける智識の探求者達の生活。それは何と云ふ目眩ぐるしい事だらう。高速度輪轉機の運転に、右から左へと、左から右へと、事實が恐ろしい勢で流れ行く。事實とは? 彼の求め居る智識だ。彼等の前には、豆絞の手拭の様な印刷物が右から左へ、又は左から右へ、とすくする絶間なく流れて行く。讀んでる間でも後から後から無限に、百呪! 千呪! 一哩、千哩、千哩……。絶對に靜止を知らぬ事實の流れ、それは恐ろしいスピードだ。そして此のスピードを取巻いて、強烈な世紀文明の光線があり、耳を壓する大都會のジヤズバンドがある。讀書、酒、勞働、娛樂、そして又青春の精力濫費としての戀愛。

文明と都會の力は、彼等に一秒の静止も許さぬ。彼等は何も考へる暇は與へられない。一分ない。人生の内奥は

(純情の娘エドナよ)
けれども、悲しき失戀の涙に
せんぐわたのはエドナであつた。昨日までは世間も認めた
自らも誇つてゐたチャーリーの愛人としての自分の優れた姿が
今更のやうに憤りじく悲しまれるのであつた。
だが、彼女は、淋しく笑つて一切を諦めやうとした。すると言ひしれぬ感激に、傷いた心から血のような涙が流れた。而も今は若き麗人を得たチャーリーの上に、幸福よ、恵まれ、と祈らずには居られない純情の女だつた。
エドナは、ロサンゼルスの西端にある、エングストラム・アパートメントの一室に、淋しく忘れられた身を横たへてゐた。クリーム色の壁は、機かしく微笑みかける。けれど、化粧鏡の前になに置かれた小さな一つの鏡像には、今は何人の姿もなく、木の裏が白々と見えてゐた。悲しき株様よ！ それでも腰かけて彼女は快活にビアード・チャーリーさん。ドレッドさんの仲は前まで居りましたの。です、更皆様のやうに驚ろきせん！ そして「チャーリーさんは富豪よ、それに好男の人は例へ七十になつても、その人の事を思つてゐる妾だつて……でも到底まりませんわ。若しあの女に将来の事をお尋ねになつたら、妾、よろこんであなたに将来的の事をお尋ねになつたでせうけど……」
快活に粋つても、深中に言葉は消へて行つた。「私には、もつと自然の——愛がございま
獨の好きな妾ですから、さう言つて、エドナは微笑した。

朝の空
心晴れたり
君が睡に
しのぶ情の
またきを
ラッシュアワアに
誰が知る

『午』
逢ふ日
逢へる日
正午の空
曇りがちなる
ビルディング
秘めし情の
昇降を
エレベータアに
誰が知る

『夜』
遙ふ日
遙へる日
雨かあらしか
醉ふた情の
接吻を
更けたカフエーに
誰が知る

添ひごげる迄
都々逸
志津枝

○臘（リンス上塗第二
ぼろ俱樂部。非賣品）
が孤々の聲を擧げて今
満一ヶ年間に得た收穫
未だ日本臭味から抜け
焼直し染みた吟もみえ
摯に精進してゐる氣持
のが何よりである。
○三之光（第二卷第一
在伯公教日本人會）信
をはかるために、よろ
ルを中心とした同會の
である。原稿を集めた
じからもう一步進んで
ある編輯態度をとつた
効果は上のであらう。

◆寄贈雑誌の紹介

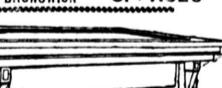
投稿家諸氏
紙上匿名は差支え
住所氏名は明記の
▼論文、創作、隨筆
別に規定は設け
和歌 題隨意 一
首以内 編切毎
▼俳句 三月課題
選者 岩波
「天ノ川」「夜」
一人五句 十五句
選者 木村

しー。き
く 孤いの 息の けまつ、もうて米さんじて、知ミル。
た。上人
孤いの 妻寄。あ國んま今つ
にが

石切二日もん。も

Cia. Brunswick do Brazil.

Rua ypiranga, 14-C, Tel. 4-6237
End. Teleg. "BRUNSWICK" - S. PAULO



及模擬品玉コラ玉突臺用バンターベタッコ用ソーラ

タタタモナーカ

ブランスウイク印

タマト印

玉突臺

は用脚の切一品屬附び及臺突玉

會商クイウスンラブ

更に
ふ感
雜誌
イブ
聖市
向上
高へる
ない
る。
い。

CASA DAS SEMENTES

Carlos Corradini

Rua S. Caetano 42 - São Paulo

野菜・花卉の優良種子が澤山到着致しまし
當店の種子は歐洲各地よりの直輸入品で充
越次第進呈。



再度の値下断行

モール会社肥料部は、
八番 たが今般更に
を伺ふ事致しました

機「リン
材機、
ンティ
ートル
」、H M
式、ブ
裁斷
機「ラ
造機、
洗灌機
M A G 印
ニヨン
部作工會高一ローユビ・ルネンレエツ
P H A M A H A 272-222 S. PAULO

侠客芝居の喧くわ

神田伯山

【回一 第】

市郎兵衛が鎧を出して

「オ、半壘を二枚呉れ」

「アヨ。ソラ、頬被りが二

なんといふ連中が来たのだ。

「どうだい立派だな」

四谷六法白柄組の

頭の黒平、鳥羽平、一平、波平

旗本衆だ

「大層多勢揃つて來たものだ

この大入にあすこの様敷が

つてどうもの芝居の方は

座を取り、市郎兵衛は迷惑

喜んでゐるが、横兵衛は迷惑

敷なら様敷、土間なら土間に買

切つて見せてやるから、二人三

人抜け／＼に行つちやアならね

えといふ觸れが出てゐる。だ

のにお前と乃公と抜け／＼に行

つちやア悪からうと思ふが、ど

うだ』

それや横兵衛と市郎兵衛

の立派だ。四谷六法白柄組の

頭の黒平、鳥羽平、一平、波平

旗本衆だ

「アヨ市郎兵衛、相撲

とちがつて芝居の方は女子供が

閉つてゐるので、ガヤ／＼し

てゐる。手拭を被つたまゝ、脇

差を懐ろへ隠して眞ん中の所へ

敷を取つて、市郎兵衛はホク／＼

敷が多いんだから、ブン／＼

白粉のにほひや油のにほひが一

絞つてほんんで、どうも

うな顔をして

「ナゼ、ア市郎兵衛、相撲

とちがつてどうもの芝居の方は

芝居を買つて、ボン／＼頭へのつけて、結

つて、ボン／＼頭へのつけて、結

たぬ。早く一幕演じまへ

ばい……。オイ／＼前の客人

お前さうバク／＼煙草をのまれ

ちやあやりきねえよ。のむな

いが、吸がらはよく消して

城ねえと煙がこつちへきてか

ら……

だつてよ。のみ通しにのん

「マア／＼いや。他人様が

自分の煙草をのんでゐるんだか

ら……

だつてよ。のみ通しにのん

お前さうバク／＼煙草をのまれ

ちやあやりきねえよ。のむな

いが、吸がらはよく消して

城ねえと煙がこつちへきてか

ら……

だつてよ。のみ通しにのん

お前さうバク／＼煙草をのまれ

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XVI

São Paulo — Quinta-feira, 13 de Fevereiro de 1930

Num. 663

J A P O N E Z E S

NO JAPÃO ... NO BRASIL

Prof. BRUNO LOBO

27

A IMMIGRAÇÃO JAPONEZA

(Continuação)

Apenas, o meu amigo Sr. Dr. Andrade Bezerra, em tempo, me avisara que teria escrito, pedindo-me a opinião sobre o projeto, de que teria V. Ex. de dar parecer. Minha opinião é desvaliosa; comodo, para não parecer exagerada a esquiva, aqui a manifesta, com brevidade, para não prolongar, ainda mais a expectativa amavel de V. Ex.; ela está, aliás, publicada em varios de meus livros, mas não me custa resumir-a.

A raça é uma adaptação ao meio: é, pois, realidade, não imutável, sendo transitaria.

Fixada, outrora, pela segregação de povos no seu "habitat" primitivo, a intercomunicação civilizada irá desfazendo lentamente esses seus caracteres, ou apressadamente os misturando, na mestiçagem; a "homogenização humana" será, por isso, um remoto, mas inevitável futuro,

São descabidos, pois, em these, os preconceitos de raça. Não ha raças "eleitas", ou "finas", "senhoras", e raças "barbaras", "grosseras", "escravas", assim faladas por Deus ou pela Natureza: essa loucura humana, que Gamplovic chamou "ethnocentria", é, em tudo comparável ao delírio de grandes, de onde, depois, o de perseguição dos individuos e que os leva ao hospício, com o nome de "paranoia"; aos povos leva-os à guerra de supremacia, domínio, conquista, de que é cheia a historia universal.

O que existe, não biologicamente, são as raças incultas e raças civilizadas, civilização apenas técnica e não moral, mas civilização, a que possuímos.

No que nos importa, aos nossos componentes, os negros africanos são superiores, sociologicamente, aos nossos selvagens, mas muito inferiores, os dous, aos brancos dominadores; por isso mesmo lhe devemos, áquelle, bom prato, educação, civilização. Enquanto isso, e até lá, sofrerá a nacionalidade com essa longa adaptação de seres inferiores ao ambiente a que são trabalhosamente chamados, e que não passam, por isso, de perturbá-lo, na sua evolução. As sub-raças originadas do contacto são inferiores, na imensa maioria dos individuos, aos seus componentes. As proclamadas "excepções" individuais ajudam á regra, e são julgadas com benevolencia. Si nos espanta, e admiramos, com fervor, o talento de alguns dos nossos mestigos celebres, elle não veio sem nevropatia, e é caso para esparto e admiração... nessa maravilha, a raça superior dissimula a sua ironia; também nas crianças louvamos, com excesso, as graças imprevistas.

A regra é, porém, que a mestiçagem é infeliz, sobretudo como mentalidade — cysallidas que ainda não são borboletas, e desesperam de ainda serem larvas...

Muitos dos nossos males nacionais vêm daí; a escravidão, abolida civilmente em 88, continuará por alguns séculos nos nossos costumes, porque está no nosso sangue... Trezentos anos talvez levaremos para mudar de alma e alvejar a pele, e, si não brancos, aos menos disfarçados, perderemos o carácter mestiço. Já purgamos outros tantos anos.

E neste momento que a America pretende desembaraçar-se do seu nucleo 15 milhões de negros no Brasil... Quantos séculos serão precisos para depurá-lo todo esse mascavo humano? Teremos albumina bastante para refinar toda essa escoria? Quanto tempo ainda para a redenção de Cham? Não bastou a Sibeira. Descobriram o Brasil...

Pois bem! Ainda com as armas na mão, não, não e não! Deus nos acuda, si é brasileiro!

Releve-me V. Ex. a franqueza, a quem só este mérito pode ter. De V. Ex. menor criado e admirador. — Afranio Peixoto.

A Sociedade de Geographia do Rio de Janeiro, com a inegável autoridade e a alta responsabilidade que tem no assunto, ante a consulta sobre o referido problema migratório, manifestou-se, em 20 de Dezembro de 1923, inteiramente contraria a qualquer restrição tendente a impedir a entrada no Brasil de algumas variantes étnicas.

Relatado o assunto e dado o parecer pelo General José Maria Moreira Guimarães, ex-addido militar do Brasil no Japão, foi o mesmo unanimemente aprovado pelo Conselho Director da referida Sociedade. São do brilhante parecer as linhas a seguir:

Aqui não dissento o Conselho Director a chamada questão das raças que têm de ver com o sólo e clima. Mas desde já declaro que lhe merece condenação o preconceito de raça ou a superioridade ou inferioridade dos individuos pela simples cor de sua pele. E nem por esta cor, nem pelas olhos, nem pela forma do crânio. Além de que a velha noção de ordem cosmologica se está substituindo pela concepção das raças históricas, tanto se estrelam e se caldeiam as populações do planeta.

E se o Conselho Director [condena o preconceito de raça, nada assegurando pela cor da pele ou pela cor dos olhos ou pela propria forma do crânio, no tocante á pretendida superioridade ou inferioridade das criaturas — claro está que o mesmo Conselho Director não ha de aconselhar a proibição, em o nosso território, de imigração preta, por ser preta. Como raça, todos os individuos lhe inspiram sympathy. Entretanto, pretos ou brancos, amarelos ou vermelhos, podem os seres humanos consubstanciar nos seus grupos étnicos idéias e sentimentos de todo ponto condenados, ou inteiramente prejudiciais á estrutura moral da nacionalidade brasileira. Pois bem, em tal caso acredita o Conselho Director se deve munir o Poder Público ou o Governo das providências políticas indispensável a proibir, no Brasil, a imigração desses maus elementos. Mas não é a proibição por serem esses mesmo maus elementos pretos ou brancos, amarelos ou vermelhos.

E se não reprova a imigração pelo só criterio da raça, não julga o Conselho Director que é de bom aviso a limitação concernente aos amarelos. Não se justifica essa limitação. Seria inconveniente e odiosa. Se não se restringe a imigração desse ou daquela povo, como reduzir "a 5%" sobre a existente" a imigração da conhecida raça amarela, onde se depara uma das populações mais originais, mais intelligentes, mais operosas, qual é a japoneza?

Não permite nenhuma dúvida o preceito constitucional do art. 72, § 10, da lei das leis da República: "Em tempo de paz qualquer pessoa de entrar no território nacional ou de sair etc.". Isto é, está forá de contestação a constitucionalidade da imigração. E se a Lei de 24 de Fevereiro de 1891 não admite exclusões, nem mesmo nenhuma restrição, como excluir o preto por ser preto e restringir "a 5%" o amarelo por ser amarelo.

(Continua)

Fracassou o plano de vôo Japão-America do Norte

Foi vendida a residencia do general Tanaka para pagar as dividas deixadas

3.000 SOLDADOS DO EXERCITO JAPONEZ MIMOSEADOS PELO IMPERADOR HIROHITO

A Estrada de Ferro Mandchuria resolve reduzir o preço do carvão de pedra

O imperador Hirohito inspecciona uma parada militar em Tokio

O Japão homenageia a memoria de um herói da guerra russo-japoneza

O principe Takamatsu prosegue nos preparativos de viagem

O JAPÃO REALISOU SEU SONHO DE 13 ANOS

O fracasso do plano de vôo Japão-America do Norte

TOKIO, Janeiro de 1930 — A Sociedade Imperial de Aviação acabava de abandonar o seu plano de vôo trans-pacífico recentemente anunciado. A Sociedade vem se dedicando ao vôo desde 1926, mas os seus engenheiros ficaram agora convencidos de que presentemente é impossível construir no Japão um apparelho capaz de vencer 4.500 milhas, a distancia daqui até a costa mais proxima do Continente americano.

Dividas deixadas pelo general Tanaka

TOKIO, Janeiro de 1930 — A residencia do general Guiichi Tanaka, primeiro ministro do governo passado, falecido no anno passado, foi em 5 do corrente vendida em leilão, afim de pagar varias dividas deixadas pelo extinto quando era primeiro ministro.

O general Tanaka ocupou por tres annos a presidencia do Seiyukai, cargo que lhe custou grandes sommas. Só nas ultimas eleições geraes elle gastou oito milhões de yens.

Soldados mimoseados pelo imperador Hirohito

TOKIO, Janeiro de 1930 — 3.000 soldados e officiaes do nosso Exercito que tomaram parte na guarda especial ao Imperador, durante

REVOCANDO O EMBARGO QUE PESAVA SOBRE O EXHODO DO OURO JAPONEZ

TOKIO, Janeiro de 1930 — Entre comunicativas alegria e plena confiança nos circulos financeiros, o Japão revogou, em 11 do corrente mes, conforme era esperado, o embargo que pesava sobre o exhodo do nosso ouro, medida evidentemente temporaria posta em prática pelo governo nipponico, faz 13 annos, e que, entretanto, vinha vigorando, contra a vontade do povo, até agora, cuja revogação constitui objecto principal entre a plataforma de governo traçada pelo Minsetô, par-

tido que tem actualmente os poderes publicos em seu poder. Tanto o sr. Hamaguchi, primeiro ministro, como o sr. Junnosuke Inouye, ministro da Fazenda, pronunciaram na tarde daquelle dia um discurso, scientificando o ponto japonês da estabilidade da nossa moeda no mercado de cambio; e assegurando-lhe que a medida não acarretaria exhodo do ouro que prejudicasse a economia nacional. Estes discursos foram transmitidos por meio de radio para toda parte do territorio.

Uma estatua em homenagem à memoria do vice-almirante Koko Akiyama em Matsuyama

TOKIO, Janeiro de 1930 — Será brevemente ereta, na cidade de Matsuyama, na ilha de Shikoku, onde nasceu, uma estatua em homenagem ao vice-almirante Koko Akiyama, herói da grande guerra russo-japoneza. O acto inaugural terá lugar no dia do 13º aniversario fúnebre do illustre morto.

O estudo da lingua inglesa pelo principe Takamatsu

TOKIO, Janeiro de 1930 — O principe Takamatsu, irmão do imperador Hirohito, proseguiu nos preparativos para sua proxima viagem á Europa e America do Norte, iniciou o estudo de inglez. Para esse fim, foi escolhida a senhora Theodora Ozaki, esposa do sr. Ikuo Ozaki, veterano da nossa politica e membro da Dieta, para servir como instructora.

Preparativos para o campeonato olympico do Extremo Oriente

TOKIO, Janeiro de 1930 — Os preparativos sobre o campeonato olympico do Extremo Oriente a realizar-se nesta capital em abril proximo, prosseguem actualmente a cargo de uma comissão, que ficou instalada no distrito de Marunouchi, nesta capital. O dr. Kishi, presidente da A. A. U. Japoneza foi eleito presidente desse campeonato.

Edição de 8 páginas

I. SHIOKAWA

UNICO IMPORTADOR

DA PORCELLANA

MARCA

Noritake

SÃO PAULO

R. Brigadeiro Tobias, 88 e 88-B

TELEPHONE 4-6367

CAIXA POSTAL 1796

End. Tel. "ELNIPPON"

do corrente mes, uma parada militar promovida pela Divisão de Tokio, no campo de Yoyogi. Sob o rigor de inverno que cobre esta capital, o campo estava coberto de gelo. S. M., com o uniforme de commandante em chefe do Exercito Imperial, inspeccionou mais de 10.000 officiaes e soldados.

Inspecção imperial a uma parada militar

TOKIO, Janeiro de 1930 — O imperador Hirohito inspeccionou em 8

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR

Rua Fagundes, 8

Tel. 7-4663

S. PAULO

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE